

弥生販売版 手形期日出力について

株式会社 HAYAWAZA

本資料では、HAYAWAZA 販売版（以下：HAYAWAZA）で、支払期日の出力方法についてご説明致します。

手順 1

【パターン設定で手形期日を読み込む】

手形期日は、一度摘要として読込をします。

パターンなどで取り込みたいデータを設定してください。

下図の例では、D 列を「摘要 3」として取り込んでいます。

パターン登録[標準]ウィザード - 明細設定(5/7)

ファイルプレビュー

B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
	120100	20251030	1	2	AB123456	723	2	12606	株式会社HAYAWAZA

基本設定 その他設定

日付

現在選択されている列を「日付」に設定 A列目からA列目まで設定されました 設定をクリア

☐ 空欄、〃の日付は、直前の仕訳日付を使用する 暦の種類: 「西暦」が設定されました
日付フォーマット: 「年(4桁)月日[yyyyMMdd]」が設定されました

入金額

☐ 「入金額」、「出金額」を同一の列で設定し、「取引区分」で分類する

現在選択されている列を「取引区分」に設定 未設定 設定をクリア

現在選択されている列を「入金額」に設定 C列目に設定されました 設定をクリア

入金伝票 [401]約束手形

摘要

現在選択されている列を「摘要1」に設定 K列目に設定されました 設定をクリア

現在選択されている列を「摘要2」に設定 未設定 設定をクリア

現在選択されている列を「摘要3」に設定 D列目に設定されました 設定をクリア

戻る 次へ キャンセル

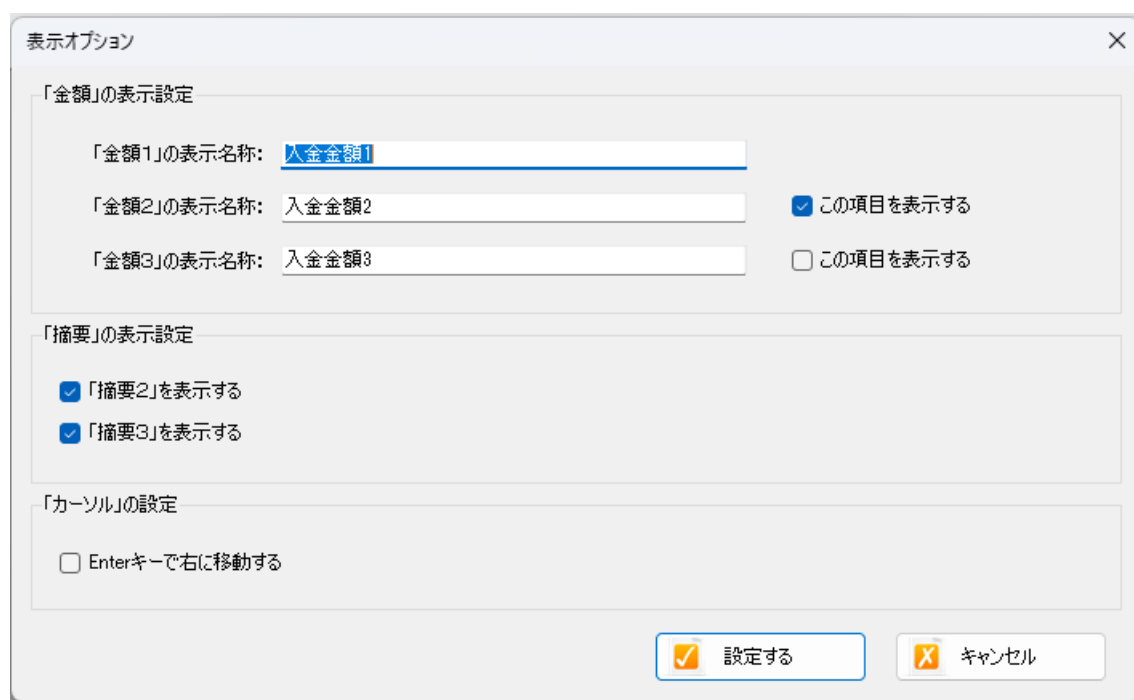
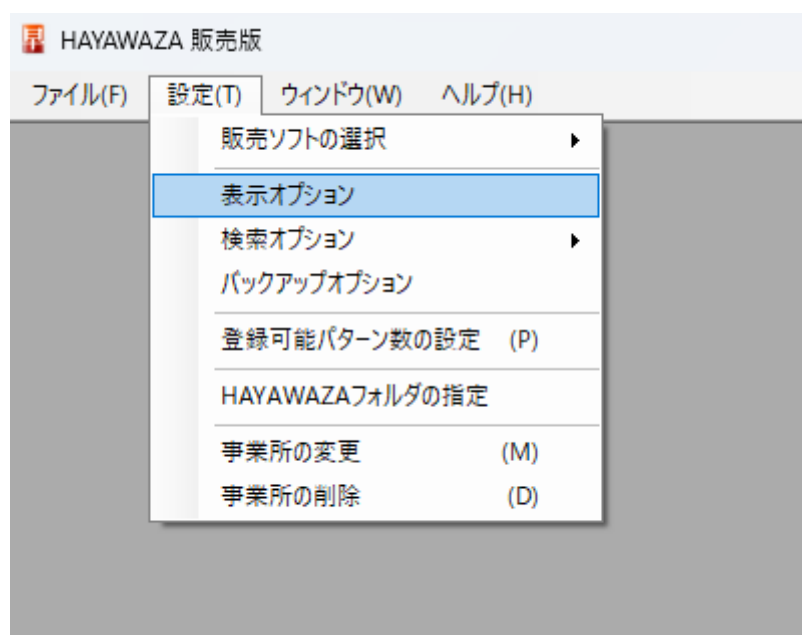
パターンの設定ができれば、通常通りコンバートを行います。

手順2

【摘要2、摘要3を表示させる】

デフォルトの設定では、摘要2、摘要3は非表示となっています。

事業所を一度閉じて、「設定」>「表示オプション」>「「摘要」の表示設定」にて、必要な摘要の項目にチェックを入れてください。



チェックを入れたら、再度事業所を開きます。

チェックは一度入れると、次回以降記憶されたままになります。

手順 3

【反映処理の設定をする】

未設定リストから、得意先を入力して学習させる際、

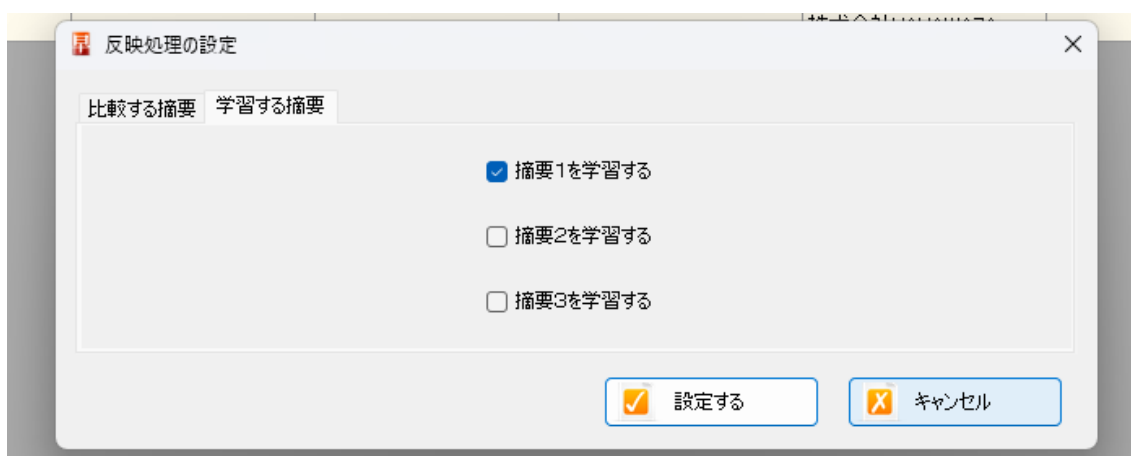
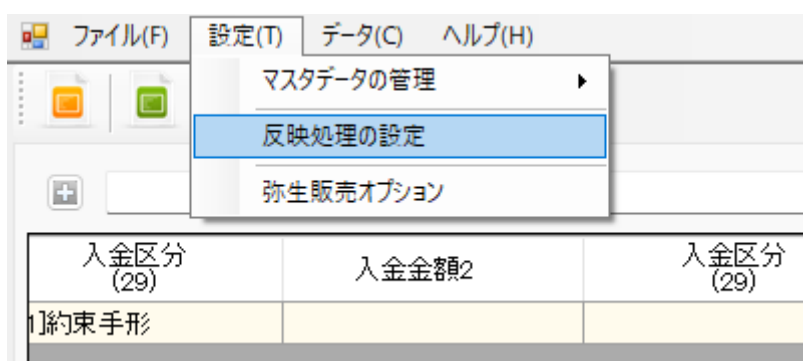
「得意先」を取り込んだ摘要のみを学習ルールとさせるように設定します。

例では、摘要 1 に得意先、摘要 3 に手形期日を読み込んでいますので、
摘要 1 の内容だけを学習させるようにします。



入金区分 (29)	入金金額2	入金区分 (29)	得意先情報 (3,606)	担当者コード	摘要1	摘要2	摘要3
1)約束手形					株式会社HAYAWAZA		20251030

「設定」>「反映処理の設定」を開き、「比較する摘要」「学習する摘要」とともに、「摘要 2、摘要 3」のチェックを外します。



反映処理の設定は一度登録すれば次回以降、同じ設定が適用されます。

手順 4

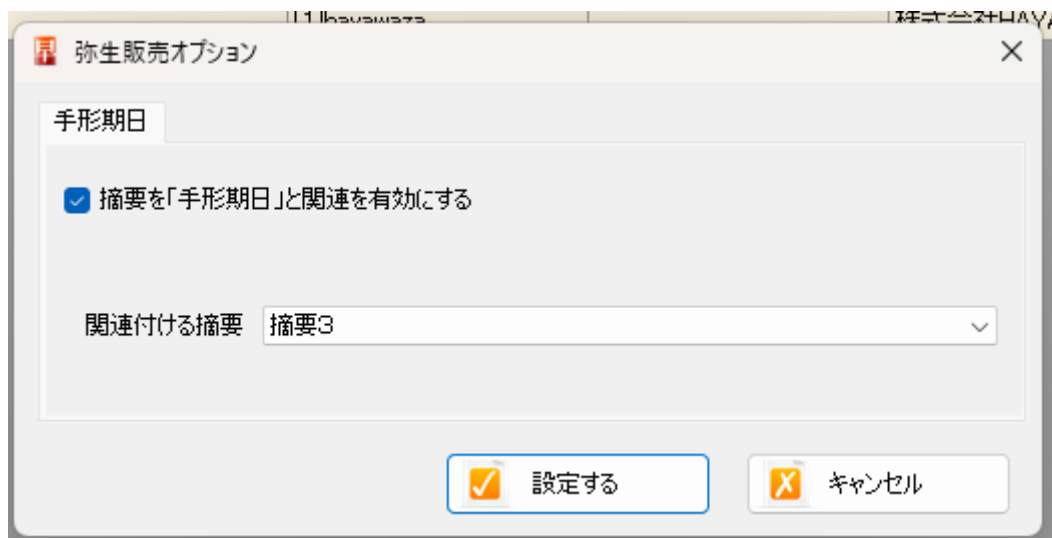
【手形期日出力の設定をする】

未設定リストに戻り、得意先コードを設定し、青いボタンで反映させます。



入金区分 (29)	入金金額2	入金区分 (29)	得意先情報 (3,806)	得意先担当者	摘要1	摘要2	摘要3
00 [401]約束手形			[1]HAYAWAZA		株式会社HAYAWAZA		20251030

「設定」>「弥生販売オプション」を開き、
「摘要を「手形期日」と関連を有効にする」にチェックを入れ、
プルダウンより、手形期日として出力したい摘要を選択し、「設定する」のボタンで登録
をします。



弥生販売オプション

手形期日

☒ 摘要を「手形期日」と関連を有効にする

関連付ける摘要 摘要3

設定する キャンセル

「手形期日」は一度設定すれば次回以降、同じ設定が適用されます。

これで、準備は完了です。

書き出しを行い、弥生販売へインポートしてください。

※手形期日の取り込みは、西暦の年月日（yyyyMMdd）の形式で取込を行ってください。

※和暦には対応しておりません。

以上